

著作権侵害と流行の関係性

柴田勇汰 (21711187ys@tama.ac.jp), 須藤文哉 (21711208fs@tama.ac.jp)
井口凌河(21711028ri@tama.ac.jp)

1. 研究の目的

本研究は、著作権侵害事件において、どのような著作物が多く侵害されているのか、また侵害されている著作物が、その時々流行と関係があるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の背景

近年、アニメーションや漫画の流行に伴い、漫画村をはじめとしたアニメーションや漫画の違法アップロードサイトが増加しているから、著作権侵害事件は無くならないのだ。

3. 研究の方法

accs¹を利用し、2008~2017年までの著作権侵害事件を調べ、その中から侵害された商品の侵害件数をまとめた。これらの検索結果上位の項目と流行の関係を調べる。

4. 調査結果と考察

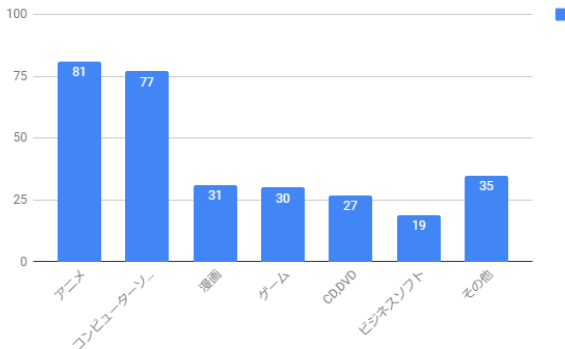


図1.2008年~2017年に侵害された著作物のグラフ

一番多く著作権侵害されていたアニメーションは当時の流行と関係があるのか調査した。

著作権侵害されていたタイトルはワンピース、ドラゴンボール、など。当時流行していたタイトルはシュタインズ・ゲート、魔法少女まどか☆マギカ、などであった。

これらの結果を見たところ、侵害されているアニメーションに統一性がなく、流行と関係しているとは考えられない。

しかし、アニメーションが一番多く侵害されていることはいわゆるオタクの文化が流行している

と考えられる。

コミケ来場者数推移

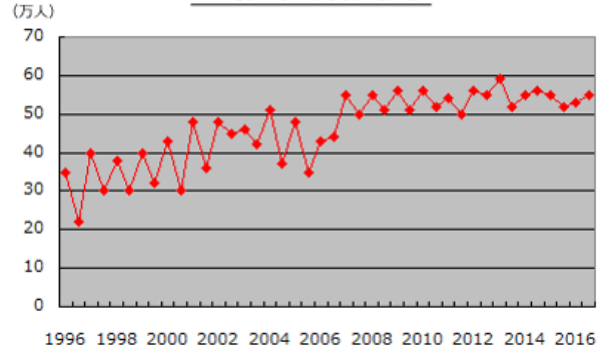


図2.コミケ来場者数の推移

90年代~2000年代前半まで右肩上がり続けていて、近年は安定した来場者数を集客していることがわかった。このグラフからアニメ、漫画が流行していることがわかる。

5. 結論

アニメーションというカテゴリが多く侵害されていることと流行は関係がある。しかし、侵害されているアニメーションのタイトルに統一性はなく、個々のアニメーションの流行には関係が薄いと考えられる。

6. 今後の課題

今回は著作権侵害と流行の関係を疑い、研究を行った。アニメーションと流行の関係はデータにより明らかになった。しかし、理由はわからなかった。今後はなぜ侵害されている著作物の中でアニメーションが多いかを明確にすることが課題になる。

¹ ACCS (一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 : <http://www2.accsjp.or.jp/criminal/>)